

りゅーとぴあ音楽アーツ・マネジメント研修2019

- 1 対象 ○大学生
○公共ホール・劇場において、業務経験年数が5年未満の職員
- 2 目的 ○公共ホール・劇場の歴史的過程を把握し、現在の状況を生んでいる理由を考える。また、公共ホール・劇場に求められている役割の変遷と、それに対してどのようなアプローチ・工夫が実際に行われているのかを学ぶ。
○研修期間中に開催される事業を通して、自主企画実施の現場でどのようなことが行われているのかを体験する。また、ホール機能と地域とのマッチング、さらにその可能性について考える。
- 3 開催期日 2019年8月23日(金)～26日(月)
開始:23日(金)午後2時00分 終了:26日(月)午後4時00分
- 4 開催場所 りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館
- 5 参加費用 ○大学生:無料
○社会人:10,000円
※参加費以外の経費(交通費・宿泊費・食費等)は個人負担となります。
- 6 定員 ○8人程度
- 7 参加者募集期間 2019年4月2日(火)～6月30日(日) ※ただし、定員に達した段階で締め切ります。
- 8 申込方法 次の事項をメール送信してください。7日以内に返信がない場合は、お問い合わせください。
①氏名
②住所
③電話番号
④メールアドレス(スマホ・PC)
⑤自分以外の緊急連絡先
⑥どうしてこの研修に参加しようと思ったか、その理由
⑦この研修で何を知りたいか
- 9 申込先 りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館 事業企画部 音楽企画課 榎本広樹
h-enomoto@ryutopia.or.jp
- 10 カリキュラム内容
- | | |
|-----------------|--|
| ①公共ホール概論 | 歴史と社会的役割の変化をたどったあと、活発な運営とならない原因を探ります。 |
| ②りゅーとぴあ概論 | りゅーとぴあの立ち位置、やってきたことを「公共ホール概論」で触れた点と対比して考えます。 |
| ③公共ホールにとっての「育成」 | ジュニア・オーケストラ教室、ジュニア合唱団、ジュニア邦楽合奏教室の運営に焦点をあてて、公共ホールにとっての「育成」について考えます。 |
| ④「企画」すること | 企画書の書式をもとに、公共ホールにおける「企画」について考えます。 |
| ⑤自主企画の現場で考える | オルガン普及企画の現場で、ホール機能と地域のマッチングと、その可能性について考える。 |
- ※開催期間内の詳細スケジュールは、お申込みの方にお知らせします。
- 11 問い合わせ先 りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館 事業企画部 音楽企画課 榎本広樹
h-enomoto@ryutopia.or.jp
電話:025-224-5614 FAX:025-224-5626
〒951-8132 新潟市中央区一番堀通町3番地2(白山公園内)

①「新潟市」と「りゅーとぴあ」を知ることで、「地域」と「公共ホール」の関係が見えてくる！

3つの専門ホール(コンサートホール、劇場、能楽堂)の集合体であるりゅーとぴあ。りゅーとぴあがなぜ誕生したのかを紐解いていくと、我が国の公共ホールの歴史的変化を踏まえた一つの結果であることがわかります。

また、りゅーとぴあの現在の運営を見ると、施設面だけでなくソフト面や組織の部分でもさまざまな工夫が発見できます。

そしてそれらが、新潟市という本州日本海側唯一の政令指定都市において、どのような活動を行ない、どんな成果を上げているか(あるいは課題を持ち続けているか)を知ることで、公共ホール全体、あるいは他の地域のホールを理解していく多角的な視点を得ることができます。ありていに言うと、公共ホールの現場の実態をどうぞご覧あれ、ということです。

②どんな人が何を考えて企画をしているか知ることで、ホールにおける「企画制作」が見えてくる！

りゅーとぴあで音楽企画の制作をしているスタッフと、さまざまなテーマで話をする時間があります。そこから、りゅーとぴあでは何を大切にして企画を考え、実施しているのかが見えてきます。キーワードは、「芸術」・「ニーズ」・「マーケット」・「タイミング」・「エンターテインメント」・「施設機能」など。

さらに、さまざまな側面における「市民利益」の最大化を目指して、企画制作上で実際にどんな作戦を展開しているのかを知ることができます。これらは皆様がこれから企画制作をしていく上で、実務的なヒントになることでしょう。

まあ、簡単に申し上げると、けっこう面白い連中だから話してみたいんじゃない、ということです。

③りゅーとぴあに集う人たちを見ることで、公共ホールのミッションが見えてくる！

りゅーとぴあと、その横に並んで建つ新潟市音楽文化会館には、日常的にさまざまな人たちが集います。

中でも、ジュニア・オーケストラ教室、ジュニア合唱団、ジュニア邦楽合奏教室は、りゅーとぴあが事務局を担い活発に活動しています。

その活動の現場を見ることで、公共ホールが地域に果たすべきミッションの一つ、「育成」について、深く学ぶことができます。

正直申し上げると、本当に現場は大変なので、気軽に「育成」になんて手を出すものじゃない、ということでもあるのですが。

④新潟の美味しいものを食べることで、地方の魅力が見えてくる！

日本海に面した新潟市は海の幸に恵まれ、また広大な新潟平野ではおいしい米と多様な味わいを楽しむことができる日本酒など、多くの特産品があります。もちろんそれを楽しんでほしいのですが、そこから「地域の魅力」というものに、思いを馳せてください。

新潟の魅力を知ることで、皆さんのふるさとや今後赴かれる地域の魅力を発見する「視力」を養っていただく。それはきっとこの先、皆様がどこで仕事をするようになって、皆様の武器になる、と考えています。

と言いつつ、実際には「新潟にいる間にどうぞたくさん美味しいものを召し上がってください」、というだけのことでございます。

参加者の声

りゅーとぴあでの研修は、漠然と「人や地域を芸術でつなぐ仕事かしてみたい」と思っていた私にとって、非常に刺激的な時間となりました。他大学の学生とのディスカッションや、アーティストや職員の皆さまのお話を通して、理想を追いすぎる傾向にあること、置かれている環境に限定された考えになっていることを実感できました。自分の生まれ育った環境や大学内から少し離れ、多角的に考えることのできるとても良いチャンスをいただけたと思っています。

今は地域と芸術のより良い関係作りの為に何が必要なのかを考えたいと思い、出身地の東京を離れ、福島県いわき市のホールに勤務しています。研修で印象に残った「理想と現実には橋をかける仕事」という言葉を胸に、修行中です。

伊藤美海 Ito Yoshimi
(昭和音大アートマネジメントコース卒。現在、いわきアリオスに勤務)

「アートマネジメント」は多義的で、現場で得られる経験とそれを言葉にしていく作業とを往還しなければ、学べないということをこの講座から気づかされました。

私が参加した約1週間で様々な方々に出会いました。「オリジナリティ溢れるパフォーマンスを作ろうと努力するジュニア音楽教室の小中高生」や「新潟にてアウトリーチなどで精力的に活動する音楽家」「音楽と地域との接点を作ろうと仕掛けを考えるりゅーとぴあの職員」など。それらの人々が様々な角度からどのように音楽に参加しているのか、講座に参加し対話するまで、知る由もありませんでした。

新潟というフィールドで、音楽を共有する場づくりを「プロ」として実践しているりゅーとぴあで経験したことは、僕が「アートマネジメント」を語る上での1つの重要な指針になっています。

山下直弥 Yamashita Naoya
(東京藝大GAアートマネジメント専修 M2)